

IV-396

地域活性化からみた定期観光バスの評価に関する研究

豊田都市交通研究所 正会員 川本義海*
 福井大学大学院 学生会員 服部正秀**
 福井大学工学部 フェロー会員 本多義明**

1. 研究の背景と目的

近年多くの市町村では地域活性化の柱として“観光”をメインに据え、交流人口の増大を目指した地域づくりを進めようと、周辺市町村と連携し、その地域全体の景観や雰囲気を含めた広域的かつ総合的な施策に取り組んでいる。

このような状況の中、複数の市町村にまたがって定期的に運行される定期観光バスは、市町村の広域的な地域づくりを交通面のみならず、地域イメージなどソフト面においても支援するものとしてその活用が期待される。しかし、定期観光バスは路線バスなどに比べ、これまでの調査研究は少なく、その統計資料も不足しているため、その実態は明らかにされていないのが現状である。

そこで本研究では、定期観光バス事業者の経営状況や需要の実態、定期観光バスの運行が地域に与える活性化効果についてどのように評価されているのかを明らかにすることを目的とする。

2. 定期観光バスの経営及び需要実態

定期観光バス事業者の経営状況や需要の実態、地域活性化効果に対する評価を明らかにするため、アンケート調査を行った。アンケート票は郵送により配布・回収を行い、全国79の事業者から有効回答を得た。その結果を以下に示す。

表-1に示すように、定期観光バスの経営に関しては、全体の3/4が赤字を出している。平均乗車率も採算性を確保するためには5割以上必要であるとしながら、実際には3割にも満たない事業者が半数を超える。また関係団体の補助や援助を受けている事業者は全体の3割程度であり、定期観光バスの経営は全国的に見て非常に厳しい状況にある。

表-1 定期観光バスの経営・需要実態

項目	内訳	事業者数	割合
現在の経営状況	かなり赤字	44	58%
	やや赤字	13	17%
	やや黒字	10	13%
現在の平均乗車率	20%以下	22	28%
	20~30%	19	24%
	30~40%	15	19%
採算性確保のために必要な平均乗車率	40~50%	18	25%
	50~60%	15	21%
	30~40%	12	16%
	60~70%	11	15%
関係自治体などからの補助や援助	ない	54	71%
	ある	22	29%
利用者の構成 (1)年齢層*	50~60歳	156	35%
	40~50歳	115	26%
	60~70歳	108	25%
(2)形態*	友人・知人	127	29%
	夫婦	106	25%
	個人	77	18%
	家族	72	17%
(3)旅行日程	宿泊	46	70%
	日帰り	20	30%
(4)男女比	女性が多い	47	65%
	ほぼ半分	23	32%

注）*は重み付き得点（3,2,1点）による

また、定期観光バスの利用者の構成には偏りが見られ、その中心は40歳代以上の中・高齢層の女性である。その利用形態としては、友人や知人、夫婦、個人などそのほとんどは小グループでの利用である。

次に、実際に定期観光バスを利用している人はどのような意識を持っているのかを明らかにするため、福井県で運行されている定期観光バスの乗客を対象にアンケート調査を実施し、114の有効回答を得た。

その結果をまとめると、点在する観光地を一度に見てまわれるという動機で定期観光バスを利用する人が多く、実際に利用した人はその内容（コース、料金、サービスなど）に満足しており、定期観光バスを高く評価している。また、自家用車を持たない高齢な観光客にとって定期観光バスは貴重な存在であり、今後訪れる高齢化社会に向けて、その存在意義を再検討する必要がある。

キーワード：定期観光バス、地域活性化

連絡先：*〒471-0025 愛知県豊田市西町 4-25-18 中根ニッセイビル4階

TEL 0565-31-8551 FAX 0565-31-9888

**〒910-0017 福井県福井市文京 3-9-1 TEL 0776-27-8607 FAX 0776-27-8607

3. 定期観光バスの地域活性化効果に対する評価

前述の定期観光バス事業者へのアンケートにおいて、定期観光バスの運行が地域の活性化に対しどの程度貢献していると思うかを、図-1に示すように、11の項目についてそれぞれ、大、中、小の三段階で評価してもらった。その結果、活性化効果が大きいと評価されているのは、①「市町村の知名度アップ」、②「地域資源の有効活用」、③「入り込み観光客の増大」、⑧「地域の活気・賑わいの創出」であった。

この結果を、昨年度福井県内の市町村に対して行った同様の調査結果とを比較すると、事業者よりもむしろ市町村のほうが全体的に見て評価が高い。特に、③「入り込み観光客の増大」、⑥「周辺市町村との地域連携の促進」の2項目では市町村のほうが事業者に比べ、その活性化効果に強く期待している。

次に、このアンケート結果をもとに、項目①～⑩を説明変数、⑪「総合的に見た場合の地域の活性化」の項目を目的変数として、数量化理論第II類モデルによる要因分析を行った。その結果を表-2に示す。なお相関比は0.543である。

レンジ・偏相関係数から、⑥「周辺市町村との地域連携の促進」、⑧「地域の活気・賑わいの創出」、①「市町村の知名度アップ」の項目が、⑪「総合的に見た場合の地域の活性化」に特に大きく影響を及ぼすことが分かる。

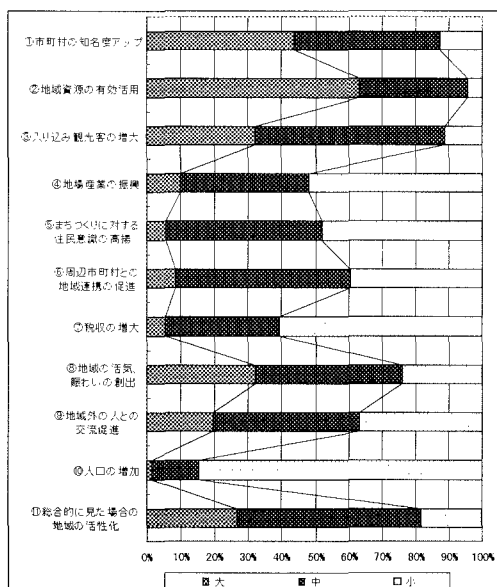


図-1 地域活性化効果に対する評価

表-2 数量化II類モデルによる要因分析結果

アイテム	カテゴリ	データ数	スコア	相関比 0.543	
				レンジ	偏相関係数
①市町村の知名度アップ	1. 大	31	-0.381		
	2. 中	31	0.280	0.799	0.327
	3. 小	9	0.418	(3位)	(3位)
②地域資源の有効活用	1. 大	45	0.034	0.093	0.046
	2. 中	26	-0.059	(9位)	(9位)
③入り込み観光客の増大	1. 大	23	-0.093		
	2. 中	40	-0.049	0.605	0.178
	3. 小	8	0.512	(5位)	(6位)
④地場産業の振興	1. 大	7	-0.138		
	2. 中	27	0.063	0.201	0.064
	3. 小	37	-0.020	(8位)	(8位)
⑤まちづくりに対する住民意識の高揚	1. 大	37	0.017	0.036	0.016
	2. 中	34	-0.019	(10位)	(10位)
⑥周辺市町村との地域連携の促進	1. 大	6	-0.756		
	2. 中	37	-0.239	1.232	0.352
	3. 小	28	0.478	(1位)	(2位)
⑦税収の増大	1. 大	28	0.316	0.522	0.230
	2. 中	43	-0.206	(6位)	(5位)
⑧地域の活気・賑わいの創出	1. 大	23	-0.583		
	2. 中	31	0.086	1.180	0.377
	3. 小	17	0.612	(2位)	(1位)
⑨地域外の人との交流促進	1. 大	14	-0.530		
	2. 中	31	0.077	0.724	0.251
	3. 小	26	0.194	(4位)	(4位)
⑩人口の増加	1. 大	11	-0.425	0.503	0.172
	2. 中	60	0.078	(7位)	(7位)
⑪総合的に見た場合の地域の活性化	1. 大	19			
	2. 中	39			
	3. 小	13			

特に、レンジにおいて第1位、偏相関係数では第2位であった⑥「周辺市町村との地域連携の促進」の項目は、図-1の単純集計においては、他の項目に比べそれほど高く評価されてはなかった。このことから、定期観光バスを今後、地域の活性化に役立てていくためには、イベントの開催やPR活動とともに、この周辺市町村との地域連携をより促進させるような運行をして行かなくてはならないといえる。

4. まとめ

本研究では全国各地で運行されている定期観光バスに着目し、その実態と、地域活性化効果に対する評価について分析を行った。得られた成果を以下に記す。

- ・定期観光バスの経営及び需要に関して、これまでまとめられていなかった基礎データを収集・整理し、その実態を明らかにすることができた。

- ・定期観光バスの運行は、地域の活性化に対し、地域資源の有効活用など多くの面で貢献でき、総合的に見ても地域の活性化につながると評価されていることが示された。また事業者に比べ、市町村の期待が大きいことも示された。

- ・数量化II類モデルによる要因分析結果から、イベントの実施、PR活動などとともに、周辺市町村との連携の促進を進めることが定期観光バスの地域活性化効果をより大きくすることにつながることが示された。